

医療保健学部医療情報学科の授業評価結果に対する考察（平成 25 年度）

副学長・医療保健学部医療情報学科長
大久保 憲

1. 授業評価アンケート結果の感想

- 授業の指導内容について(関心度)の評価は高い評価であっても、授業内容をよく理解できたかどうか(理解度)については否定的な答えがある。今後、説明や内容に工夫の余地がある。
- 同じ内容で2クラス構成の授業を行うことがあるが、クラスによって評価が分かれる場合がある。総合的な満足度に偏りがあるため、その理由を考えなくてはならない。
- 複数の科目の授業結果を比較すると、少人数の講義では授業評価が高く、多人数の講義では評価が低い傾向があった。質問項目「教え方」に改善の手掛かりがあるようなので、具体的な対策を科目の特性に応じて立てていきたい。
- 授業内容を理解できている学生とそうでない学生の二極化が問題だと考えられる。その対応として興味が持てない学生に対しても積極的に復習してもらえよう環境作りが必要だと思われる。
- ビデオ画像を多用している授業は興味深く学んでいると思われる。
- 全般的に学生自身の授業態度に対する評価は比較的良好であり、熱心に授業を受けていた状況が理解できる。一方、授業態度の評価が低いとした科目に対しては、授業環境をより良くして積極的に授業参加を促す必要を感じている。
- 「実験」では、長時間拘束を余儀なくされ、取り組み方によっては時間内に終わらない学生もいる。教員として実験の準備を怠らないようにすると同時に、各種の資格認定試験をパスできるようにレベルを設定して授業を進めていく必要がある。
- 最近話題となった医療にかかわるニュースに興味を示す傾向がある。学生が医療に興味を持ってきている状況が明らかとなった。

2. 授業において工夫した点について

- 講義の中で、医療用データベースとして評価の高いインターシステムズのCache(データベース管理システム)を紹介し、パソコンを使用したデモンストレーションを実施した。Cache のデモは、30 分間のデモを 6 回行っており、毎回操作の途中に幾度か確認をとりながら進めたが、ついていけなかったとする指摘があったため、デモ内容を簡便にして、何度か繰り返すようにした。
- 各回のリフレクションペーパーを自由記述形式から「理解できたこと」と「分からなかったこと」を 10 項目ずつ記述する形式に変更した。講義を

聞いた感想ではなく、学生の講義内容の理解度を学生が自省し、また、教員も確かめることを目的とした工夫をした。

- 企業見学の授業では、訪問先企業での人材育成プログラムの一部を受講するようにした。学生にとって、大学で学んでいることが、実際に入社後も活用できるという体験をしてもらっている。
- 集計ソフトエクセルを使用して、統計処理ができるように教材を工夫して使用した。
- 医療情報管理概論を医療情報基礎知識検定対策の講義と指定したことで、昨年度の基礎知識検定は 15 名の合格者であったものを今年度は 67 名に増加させることができた。
- 学生の自由記述にもあるように、理解しやすいようにゆっくり授業を行うことに注意を払い、学生の質問を受けながら授業を進めるようにした。
- 講義全体のフレームワークは変更しないで、配布資料の表現やデータに関して見直しを実施している。また、演習問題の追加・変更等によりできるだけ講義が活性化するように工夫している。
- 解説のみでは理解しにくいと考え、毎回小テストの時間を設けた。
- 先端情報処理特論では、高校で物理や高度の数学を履修していない学生に対して、講義の基軸である information & communication technology (ICT) の基礎の理解度を高めるため、1) ルーペで画像構成要素を確認、2) 液晶ディスプレイに使われる偏光板を持ち込んでその工学的効果を確認することを実施している。また、ICT 関係のトピックスを紹介して、その背景や技術内容を説明している。
- 学生が、ただ話を聞いているのみでは学修効果が少ないと考えて、半期で 4 回のレポートを提出させてまとめの講義を行った。
- 定期試験に加えて中間テストを実施している。さらに学生の理解が得られない個所については試験前に演習を取り入れて、学修範囲を明確化させている。
- Desknet' s の活用として、回覧レポート機能を用いて報告してもらい、この報告をもとに授業の進捗に付き検討した。
- 講義の中でポイントとなる部分について、試験において配点を高くしてキーとなる部分を認識できるようにしている。

3. 今後の授業にどう生かすか

- 授業にクリッカー(アナライザー)を使用して学生の集中力を持続させる。
- 講義の最初に、毎回学習目標を明示するように心がける。
- 医療系企業の社員から講義を聴く前に医療情報基礎知識検定の学修範囲を学び、予め講義を聴くための基礎概念を身に着けて、より講義内容の理解が進むように工夫する。
- スライドが無い講義でも話を聴きながらノートを取る練習や、グループワークの方法について十分な授業時間を取り、準備をした上でアクティブラーニングを実施し、かつ、授業内での時間管理について学生が自主的に

行える環境を整備する。

- 学生が興味を持てるように教科書以外の話題も取り入れて講義を行いたい。
- 授業内容に対する理解を得るために、実験・実習科目では基礎的な問題量を増やして基本の定着に力を入れたい。
- 授業の理解度のばらつきを解消するために、「基礎」と「応用」に分けるなど、個々のレベルにあった課題設定を考えていきたい。
- 医療現場での体験談について学生が興味を示すことから、これまでの仕事での体験談や最近話題となっている医療ニュース等を講義の中に積極的に取り入れていきたい。
- 双方向の授業において、意欲に欠ける学生も多いため、意見や考えを引き出す工夫をしていきたい。知識も大切であるが、それを基に考える力を付ける授業を更に考えてみたい。
- プリント、マルチメディア、板書をバランスよく取り入れて、興味ある授業を展開していきたい。
- 講義の最初を復習に当て、新しい部分とのつながりを示し、最後に振り返りのための宿題を出して復習すべき点を明確化したい。
- 毎回の講義において、学生の興味を持ってそうな将来のビジョンや研究を紹介するなどに取り組んでいきたい。

4. その他

- 授業評価において、質問項目の回答と自由記述欄のコメントとの相関を確認し、コメントの内容をより深く分析して、次年度の授業に活用したい。
- Web で学習進捗を管理している科目では、その都度、授業についてのコメントを集めている。今後は、学生・教員・職員を交えたオープンな FD 会議を実施する等授業内容の改善に取り組むこととしたい。
- 教科書の内容に濃淡があり、編者の一貫した考えが薄く感じられる。また、教科書が改訂される度に範囲が追加されて、限られた時間内に消化するには無理が生じている(臨床医学各論)。
- 3 時間連続の授業では学生の授業に対する集中力を欠く恐れもあり、前後期に分けて授業を行うことも検討したい。